

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2773900291		
法人名	日本ロングライフ株式会社		
事業所名	グループホームみなせ 号館		
所在地	〒618 - 0014 大阪府三島郡島本町水無瀬2-1-6 (電話) 075-963-4478		
評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビル ITM棟9階		
訪問調査日	2009年 12月 4日	評価確定日	2010年 1月 18日

【情報提供票より】(21年 9月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15	年	6	月	1	日
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27	人			
職員数	25人	常勤	21人	非常勤	4人	常勤換算	24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建て	2~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	100,000	円	その他の経費(月額)	126,000	円	
敷金	有()	円		無		
入園金	7,800,000	円	償却の有無	有(15日)	/ 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり	2,000	円			

(4) 利用者の概要(12 月 4 日現在)

利用者人数	24名	男性	5名	女性	19名	
要介護1	0名	要介護2	5名			
要介護3	8名	要介護4	3名			
要介護5	8名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.6歳	最低	69歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	陣内外科クリニック ・ エルケアデンタルクリニック
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急京都線水無瀬駅から府道124号線に沿う商店街を5分程歩いた場所に在る。経営母体は全国に多くの施設を展開する日本ロングライフ(株)であり、みなせ 号館に続き本ホーム 号館が平成15年6月に3ユニットにて設立された。日本家屋風の門構えを一步入ると、広い敷地内に多くの樹木が植栽され、専門の庭園管理者によりよく手入れがされている。一周50メートル程の池泉回遊式庭園は、程よい散策のコースである。専門の料理長による3食の食事提供の他月1回のバイキング方式が取り入れられ、各居室は専門の清掃員により清潔である。格調高い調度品や落ち着いた雰囲気の中での生活であり、家賃等平均比が高いが、入居者を安定した毎日の生活へと導いている。ホーム長は、号館を兼任しているため多忙。経営母体が大きい分安定感が高いと言えるが、今後は書類面での整備もより一層望みたい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業他社との交流・介護現場のスタッフの年齢層・居心地のよい共用空間作りが主な改善課題であった。島本町内の当社経営のグループホームとの交流は、当然ながら活発である。介護現場のスタッフは20代~70代と年齢層も広がり、行き届いたケアがなされている。1階のリビングを日常的に利用するのは引き続き今後の課題と言える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、ケア・マネージャー、前回実施時のホーム長、介護職員の声をもとに取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	毎回の主な議題内容は、現在の運営状況について・ホームの様子・今後の予定となっている。参加家族からの意見や要望が出された時は、それらに対する返答もなされている。町内会や島本町の職員にも声をかけ、幅広い参加を得てほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見や要望は、スタッフを通したり運営推進会議での発言により汲み取っている。また、本社では「お客様相談室」が対応している。会議に参加出来なかったり言い辛い家族もいると思われる事から、「意見箱」のような投書箱を設置し、要望や苦情等書き入れてもらってはどうか。今回のアンケートによる家族からの意見や要望は、職員の人数や異動・ホーム長の兼任などについてであった。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のボランティアによる慰問(サンシンやハーモニカの演奏、銭太鼓等)があり、中学生の体験学習も受け入れている。職員は溝掃除等清掃活動に参加し、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「お客様により添う」 「認知症の方の不安感を取り除き常に安らぎと充実感を感じていただけるような雰囲気作り」に努めている。		理念の提示がなされていない。玄関やリビングなど来訪者がすぐ目に付くような場所に掲示されたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人としての理念を含め、毎日朝礼で唱和し、フロアミーティングやホーム全体ミーティングなどでも周知徹底している。		今後も理念の実施に向けて職員一同取り組んでいかれる事を願う。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや地域主催の文化祭などには、入居者と一緒に参加している。ボランティアによるサンシンやハーモニカ・銭太鼓等の披露、また、中学生の体験学習の受け入れも行って。職員は地域の清掃活動に参加している。		地域の人々がボランティア等で訪れ、交流は盛んである。今後は地域の人々を対象とした講演会や勉強会を開催してみても如何かと思う。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が日頃の自分達の介護が他人の目から見て、正しく評価されるかの判断基準と成る為に、必要と考えている。ミーティングなどで介護技術の研修をし、各人の技術の向上に努力している。		評価の意義や理解を常に確認し、外部評価での指摘を今後の運営に活かす事を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1度開催している。役場の介護保険課や本社からも参加し、入居者家族からの質問や要望に答えるようにしている。</p>		<p>家族の参加だけでなく、地域（町会・老人会等）や町役場・地域包括支援センターの人などにも促し、幅広い立場の人々が参加する会議として欲しい。外部評価の結果を公表し、今後の改善・取り組みに活かされる事を期待する。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>入居に関しては、町役場の担当者と話し合いを重ねて無事入居につながった例もある。町役場や地域包括支援センターまた社会福祉協議会には、営業アドバイザーと頻りに訪問している。</p>		<p>今後も普段からの関係を密にしておきたい。まずは運営推進会議への参加を呼びかけて欲しい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月5日に、1カ月間の入居者の状況を文書にて報告。同時に、1カ月間の預かり金の出納状況や会社情報誌、イベント報告など送付している。担当ヘルパーによる一筆箋も同封しており、ヘルパーと入居者家族との信頼関係の構築にも努めている。</p>		<p>入居者の日々の様子は、便りや電話で積極的に報告されたい。不必要な情報誌やパンフレットの送付を望まぬ家族もあり、経費削減の声も聞かれる。（アンケートより）</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議時に家族の意見や苦情を聞く時間を設けている。その他、ホーム長、サービスディレクター、ケアマネージャーが窓口となり対応。本社ではお客様相談室が設けられている。ホームで受けた苦情は、業務日誌やクレーム報告書で迅速に本社へ報告し解決を図っている。</p>		<p>運営推進会議に出席できなかつたり、直接ホームの人間に意見を言い出せない家族もいるかと思われる。意見・要望・苦情等をいつでも受け付けられる「意見箱」なる投書箱の設置を提案したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や退職に関して、入居者への挨拶は混乱のない人だけにしている。家族には挨拶をしているが、今後の引継ぎなどで不安を感じられないように配慮している。</p>		<p>ホーム内（2階～4階）での異動勤務や本社への異動勤務等、家族からは職員の異動に対する不満の声があった。法人内の異動は組織の活性化のためやむをえないところであるが、入居者の不安を可能な限り抑えることのできるような慎重な対応を、会社全体として取り組んで頂きたい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時、1ヵ月目、3ヵ月目の新人研修、入社3年以上が対象のブラッシュアップ研修、学院主催の有料講座、労働組合主催のステップアップ研修など社内で様々な研修を用意している。また、ケアマネやナース、管理職、ディレクター（現場リーダー）を集めた各種専門職研修を行っている。		職員が向上心を持って働き続ける為の環境作りやトレーニングを行っている。職員の自信につながる育成作りをするため一層の努力を求めたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者連絡会に参加したり、地域の病院主催の研修に参加している。（認知症や精神疾患）		前回指摘の項。 社外の同業者との交流は視野を広げ、得る事も多い。サービス水準の向上に役立てる為にも、今後とも可能な限りの試みをして欲しい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	以前利用されていた事業所との連携や、病院・自宅への訪問を重ねている。入居後も落ち着かれない場合は、家族と密に連絡を取り合っている。		今後も本人が安心して入居出来るよう、馴染みのあるサービスを期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は介護職をサービス業として理解し、ADLだけでなく心の変化にも重きをおくケアを実施している。申し送りやケアダイアリーを利用し、良い事も悪い事も共有している。何より職員が心底楽しんでイベントに参加する事で、入居者も楽しんでもらえると考えている。		入居者の顔が明るくいきいきとしている。今後も共に支えあい助け合いながら、ホームでの生活を楽しく送っていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	グッドフィーリングシートを作成。日々、入居者のリズムに合わせて職員は動くようにしている。		入居者本人の視点に立ち、思いや希望に添えるよう把握に努められたい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	フロアミーティングから上った内容をケアマネジャーが中心に検討し、ケアプランに活かしている。		今後とも入居者本人や家族の意見・要望を取り入れ、一層の本人本位の介護計画となるよう期待したい。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3カ月に1回のモニタリング、半年に1回のケアプランの見直しを行い、内容を家族と確認し合い署名・捺印をもらっている。体調やレベルの変化があった場合は、その都度ケアプランを見直し、ミーティングにおいて周知徹底している。現状維持の入居者においても、体力保持や転倒、事故防止に留意したプランを作成している。		今後とも設定した期間のみならず、臨機応変な見直しをはかり、実情に即した介護計画の作成に臨まれたい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	介護保険外サービスの付き添いや入居者家族の宿泊が可能。1階で行われているグループ会社によるデイサービスは無料で参加できる。		デイサービスへ参加できる入居者は大いに参加し、楽しいひとときを過ごして頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関（往診専門）以外に通院を希望されている入居者には付き添い料不要で支援している。また緊急時の搬送先の病院の希望も受け付けている。		本人や家族の希望される医療機関に受診出来る事は良い事である。それぞれの医療機関と提携医療機関との関係を密にし、受診結果に関する情報の共有を図る事は大切である。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とかかりつけ医との話し合いを出来る限り多く設定し、終末期の対応の方針を検討。介護スタッフに対して内容の報告や意見聴取をし、対応を煮詰めていく。職員に対してのターミナル研修や精神的なケアも行っている。		状況の変化に応じ、その都度話し合いの場を持ち方針の統一を図って欲しい。重度化に伴う話し合いの内容を書面に残し、確認印も残しておきたい。重度化や看取りに關しての事業所が対応し得る支援のあり方を「重要事項説明書」や「契約書」に記載される等の工夫を考慮されてみては、と思う。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	朝礼で社員遵守事項を唱和し、意識向上に努めている。ミーティングにおいても尊厳を守る事の意味や、日々使っている言葉使いを職員間で確認しあっている。個人ファイルは鍵のかかる戸棚に保管している。		一人ひとりの入居者の誇りを把握するには、日常的なコミュニケーションが大切になる。今後共職員間で情報交換しあい、入居者の尊厳に努めて頂きたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にするためのグッドフィーリングプランを作成し、そのプランに則った生活リズムの中で生活してもらおうとしている。身体変化に伴うプラン作りの具体的記録は無い。		これまでの生活暦の中での、楽しかった事得意とした経験などを引き出し、それらを取り入れ日課に変化をつけながら、身体機能を維持・回復できるよう考察されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の3食は専門の料理長により作られ、各フロアに運ばれる。月に1度、1階のリビングでバイキング方式での食事があり、楽しみのひとつとなっている。おやつは各ユニットで、職員と共に入居者も手伝いながら作っている。		入居者自身が買い物や調理が出来る機会を持ち、またユニット間での交流も期待したい。昼食は職員も同食を基本とする事が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎回入浴可能になっているが、夜間の入浴は職員の勤務割により困難。一人ひとりのタイミングや入浴間隔に合わせて柔軟に対応している。		入浴支援は一番のコミュニケーションの場である。個浴の場合は生活習慣を尊重できるケアとし、入浴嫌いの入居者へのケアについては何故嫌になったのか、原因を探求する事が重要である。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	シーツ交換やリビングの掃除などの役割を持ってもらっている。近くの文化センターに行き、楽しく過ごしたりしている。		ひとり1役、どんな小さな事でも役割をみんなの中で明らかにし、協力を促す工夫は生活目標となるものである。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日1回は園庭での外気浴が出来るよう心掛けている。		ホームとして恵まれた環境をより活用し、日課として園庭散歩や土いじりをしたり、車椅子での外出支援も積極的に計画し、五感刺激効果を期待したい。個々の外出支援が難しい場合も、各フロアから1階の大リビングに降りて過ごすだけでも良いのではないかと考える。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついていない。敷地の門は施錠している。エレベーターは自由に使えるが入居者に対しての見守りが必要。		鍵をかけない暮らしの大切さを職員が意識する事は重要である。受付に於いては出入りの確認は出来るが、門扉の施錠については今後も引き続きの課題といえる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルや連絡網は完備されている。非常災害時は消防署に直接繋がる電話が設置されている。消防訓練を自主活動を含め年2回行っている。広域避難場所は、隣保館。		今後避難訓練は、消防と共に地域参加を要請し協働で行いたい。災害時に備え、食料・飲料水・医薬品・防寒具・簡易トイレ(おむつ)などの備品を確保しておきたい。また、通信時の破壊に備え、広域避難場所は家族や関係各所に通知しておきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事は記録されている。必要に応じてとろみ食やソフト食を提供している。		食事の時間に入居者は積極的にリビングに集合。笑顔も多い。今後も入居者の希望を取り入れながら、楽しい食事タイムを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の大リビングは全面窓を取り入れ、採光は十分である。季節の花が飾られ、リビングからの庭園の眺めはすばらしいものである。		入居者は2階から4階に居住しており、1階までの移動は見守りが必要となるが、1階も生活居住範囲と考え、大リビングをもっともっと活用してみてはどうか。(参考: 日常的な外出支援)
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた馴染みの家具や敷物が置かれている。花を生ける入居者もおり、それぞれ居心地よく過ごせる工夫をしている。		ベッドから離れ、ソファでくつろぎながらテレビを観る入居者もいた。室内の清掃は専門の業者が入り、清潔である。入居者は落ち着いた表情で笑顔がみられ、居心地よくすごしておられる様子を感じた。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。